

皮ごと食べられる赤色ブドウ新品種「サニードルチェ」の特性		
[要約] ブドウ新品種「サニードルチェ」は、果皮色が赤色、肉質が崩壊性で皮ごと食べることができる。収穫期は10月中旬で、青リンゴのような風味をもつ。雄ずい反転性のためジベレリン処理が必要であり、裂果性があるので栽培には注意が必要である。		
茨城県農業総合センター園芸研究所	成果 区分	技術情報

1. 背景・ねらい

本県のブドウ経営は、観光直売型で営まれ、「巨峰」が主力品種となっているが、消費者の嗜好が変化し、「巨峰」とは異なる食味の品種や、食べやすさから種なしブドウに対する需要も大きくなってきている。

そこで、山梨県において育成され平成21年2月に品種登録出願公表されたブドウ新品種「サニードルチェ」の特性について検討する。

2. 成果の内容・特徴

1) 育成経過および調査概要

新品種「サニードルチェ」は、山梨県において「バラディ」に「ルビーオクヤマ」を交雑して育成された二倍体のブドウ品種である。平成16年より「山梨45号」の系統名でブドウ第11回系統適応性検定試験に供試し、品種特性を調査する。

2) 栽培特性

樹勢は強く、開花期、収穫期は「巨峰」より遅い。笠間市における収穫期は10月中旬である（表1、2）。発芽は良好で、短梢剪定においても花穂の着生が良好である。

3) 果実品質

果皮は赤色で果粒は長楕円形である（図1）。皮ごと食べると青リンゴのような風味があり、糖度・酸度は巨峰より低く、さっぱりとした食味である（表2）。剥皮性は難だが果皮は薄く、皮ごと食べることができる。果肉は崩壊性で硬い。

4) 生理障害

裂果しやすく、収穫期に裂果が多く見られる（表2）。裂果は果梗部から縦方向（果頂部方向）に割れる。果汁はそれほど出ないため、腐敗につながる裂果は多くない。

3. 成果の活用面・留意点

1) 灰色かび病に弱いいため雨よけ栽培が好ましい。裂果性があるため土壌の乾湿差が大きくならないように気をつける。

2) 雄ずい反転性のためジベレリン処理が必要である。

3) 直光着色性が強いため棚面を明るくするなど房に光が当たるように工夫する。また、大房や着荷過多により着色が悪くなり、糖度が低下する恐れがあるので注意する。

4. 具体的データ



図 1. サニードルチェ

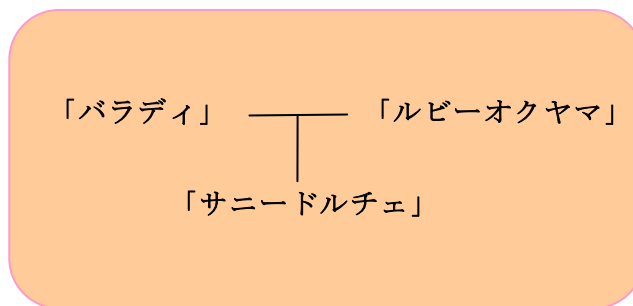


図 2. 育成経過

表 1. ブドウ「サニードルチェ」の品種特性

品種	年度	樹齢 (年生)	樹冠面積 (㎡)	収量 (kg/樹)	収量 (kg/㎡)	発芽期	開花 盛期
サニードルチェ	H18	4	8	13	1.6	4/23	6/13
巨峰	H18	4	7	6	0.9	4/25	6/14
サニードルチェ	H19	5	23	51	2.2	4/22	6/5
巨峰	H19	5	24	22	0.9	4/23	6/8
サニードルチェ	H20	6	40	52	1.3	4/23	6/13
巨峰	H20	6	66	91	1.4	4/30	6/13
サニードルチェ	H21	7	34	57	1.7	4/19	6/2
巨峰	H21	7	70	62	0.9	4/19	6/6

「サニードルチェ」は雨よけ(樋なし・4月中旬被覆)栽培、短梢剪定H型。新梢は房先5枚で摘心。植調剤処理は満開時及び満開10日後にGA25ppm。巨峰は露地栽培・長梢剪定・植調剤はH18～H20年無処理、H21年満開3日後にGA25+F10。

表 2. ブドウ「サニードルチェ」の果実特性

品種	年 度	収穫 日	果房重 (g)	果粒重 (g)	糖度 (Brix%)	酸 (g/100ml)	裂果粒率 (%)
サニードルチェ	H18	10/17	491	13.9	19.4	0.40	64
巨峰	H18	10/4	237	12.9	20.3	0.42	0
サニードルチェ	H19	10/11	647	12.2	16.7	0.39	18
巨峰	H19	10/10	314	12.5	17.9	0.45	0
サニードルチェ	H20	10/28	577	14.7	17.3	0.36	35
巨峰	H20	10/9	386	11.7	17.6	0.60	0
サニードルチェ	H21	10/12	797	13.1	18.4	0.37	84
巨峰	H21	10/5	412	11.7	18.9	0.55	1

果実品質は示した収穫日に収穫した5～10房の平均。

5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

果樹奨励品種決定と生態収量予測(ブドウ第11回系統適応性検定試験)・平成16～21年度・果樹研究室